

和歌山臨床細胞学会 ロゴマークについて

【募集期間】

令和4年2月1日～令和4年12月31日


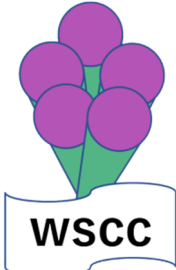
【募集要項】

- ・「和歌山臨床細胞学会」を連想させるもの
- ・著作権に触れない自作（未発表）で、他に発表していないもの
- ・他に類似するものがないか発表者自身にも確認していただく
- ・作品の意味付けを説明すること

【募集結果】

3件の応募があり、執行部会による審査を行った結果、全ての応募ロゴマークに対して、会員に投票選定していただくことになった。

応募作品とロゴマークに込められた想い

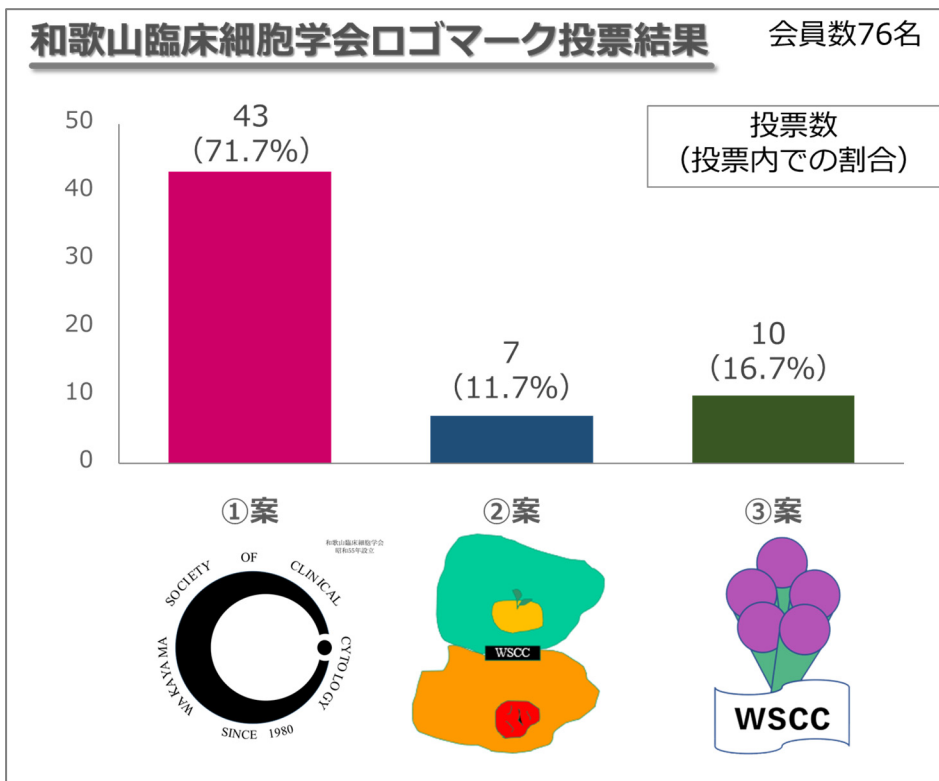
<p>①</p> 	<p>和歌山の和(わ)を象徴した、全体的に『まる』みのあるデザインとし、細胞と重ね合わせました。デザインは4つの○でのみ構成された非常にシンプルなデザインで、色調も単純に白黒2色で統一されています。シンプルさを基本にしたデザインです。</p> <p>細胞診 Cytology のC 悪性細胞を見逃さない、悪性細胞を捕えることの重層性をデザインにしました。さらに、癌細胞を力強く捕えるための「力強さを感じさせるデザインとしました」デザイナーの意見として、腺癌と小細胞癌をあらわしています。</p>
<p>②</p> 	<p>日本臨床細胞学会のロゴマークはヘマトキシリンの「葉」をモチーフにして描かれており数十年経った現在、何かそれに近い感覚で表現できないかと考えました。本来、細胞診は後臈円蓋部に溜まっていた液を採取して染色したところ、その中に核が大きくヘマトキシリンに濃く染まる細胞を見つけたことです。そのことがきっかけで患者様に苦痛をあたえず細胞採取が簡単に行えることによって癌細胞が見つかる可能性があることを発見したのが細胞診の夜明けと聞いています。その発見の元となったのがオレンジ色とライトグリーンに染まる表層型および中層型の扁平上皮細胞の割合によって患者様のホルモン状態が分かるホルモン細胞診がきっかけとなったようです。そこで、何とかその扁平上皮をロゴマークに取り入れることができないかと考え和歌山県の特産物である梅干しとみかんを細胞の核とみなし組み合わせたのが今回のロゴマークです。</p>
<p>③</p> 	<p>和歌山と言えば梅の栽培が有名な県であり、和歌山を表す梅の花と腺細胞のロゼット様配列をかけてロゴマークを考えました。</p>

【投票期間】

令和 5 年 1 月 23 日 (月) ~ 令和 5 年 2 月 3 日 (金)

【投票結果】

会員数 76 名のところ、60 名の投票があった。(投票率 78.9%)



【決定】

①案を和歌山臨床細胞学会のシンボルマークとする